



## 春を迎える前に～努力が花咲く季節に向けて～

さいたま市立七里小学校  
校長 舘 和 成

1月の後半より、連日、最低気温が氷点下となる厳しい冷え込みが続いています。朝は特に吐く息が白く、手袋をしていても指先が冷たくなるほどの寒さで、冬の深まりを実感する毎日です。「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と昔から言われるように、年の始まりから年度の締めくくりにかけての時期は、月日の流れが一層早く感じられます。新しい年を迎えたと思っていたのも束の間、季節はあっという間に2月へと移り変わり、学校では、3年生のクラブ見学やありがとう集会、6年生を送る会など、様々な活動が次々と進んでいきます。

2月の初めには節分があります。節分とは本来、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指し、「季節の分かれ目」という意味があります。中でも立春の前日の節分は、1年の区切りとして邪気を払う「追儺（ついな）」の行事が受け継がれており、「鬼は外、福は内」と声を掛けながら行う豆まきには、「災いを退け、よい1年を迎えたい」という願いが込められています。季節の変わり目は体調を崩しやすいとも言われますが、気持ちを新たに、よりよい姿へ踏み出す節目でもあります。子どもたちにも、この季節を、自分自身を見つめ直すよい機会として、大切に過ごしてほしいと思います。

節分を過ぎると立春を迎え、暦の上では春となります。冷たい風が吹く中にも、日差しの柔らかさや木々のつぼみのふくらみに春の気配を感じるようになります。自然が確実に季節を進めるように、子どもたちも1年間の取組を土台として、確かな成長を見せています。学習では、自分の考えを大切にしながら友達と意見を交流したり、学習課題に真剣に向き合ったりする姿が見られます。生活面でも、普段のあいさつや学級での係活動・当番活動、休み時間の過ごし方など、友達と仲よく、楽しく活動する姿が多く見られます。こうした日々の積み重ねが、落ち着きや自信へとつながっています。一つ一つの努力が芽となり、今、しっかりとふくらみ始め、春に向けて花開こうとしているように感じます。

6年生は卒業に向けての活動が本格的に進んでいきます。最上級生として学校を支えてきた姿は、下級生の子どもたちにとって大きな学びとなっており、その背中を追うように、どの学年も次のステージを見据えながら、落ち着いて学校生活を送っています。

最上級生として学校を支えてきた姿は、下級生にとって大きな学びとなっており、その背中を追うように、どの学年の子どもたちも次のステージを見据えながら、落ち着いて学校生活を送っています。

年度末は、これまでの努力が実を結ぶ「ラストスパート」の時期です。1年間の学習のまとめに向けて、一人ひとりが力を十分に発揮し、自信をもって進級・進学できるよう、教職員一丸となって教育活動を進めてまいります。そして、こうした子どもたちの学びや成長を支えてくださっているのは、保護者の皆様、地域の皆様です。日頃からの温かい御支援・御協力に改めて深く感謝申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、質問や心配なことがありましたら、どうぞ遠慮なく学校まで御連絡ください。また、お子様の普段の様子を御覧いただくことも可能ですので、その際は職員室までお声掛けください。

厳しい寒さは続きますが、春はすぐそこまで来ています。子どもたちの成長を感じながら、残りの期間も丁寧に教育活動を進めてまいります。2月も引き続き、本校への御理解と御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。